

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	水野 修	学校名	東京 <b>都</b> 道・府・県 私立 和洋九段女子中学校高等学校
担当教科等	日本史 B	対象学年 (人数)	高校 2 年 A 組 ( 16 名 )
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和 3 年 1 月 ~ 月 ( 3 時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：高校日本史B		
2. 単元(活動)名：琉球・沖縄史		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：琉球・沖縄史から考える ～あなたにとって「日本とは？日本人とは？」～ 単元目標：「世界の中の日本」を考える実践テーマとして「琉球王国の歴史」を取り上げる。先史から現代に至る沖縄の歴史を概観・理解しつつ、通常の日本文史より空間的範囲を押し広げた視座から社会や文化を考える。 関連する学習指導要領上の目標：我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによつて、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	歴史の展開における諸事象の意味や意義を理解し、その知識を身に付けている。歴史資料を含む諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。
	②思考力、判断力、表現力等	歴史事象の推移や変化、相互の因果関係を多面的・多角的に考察し、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈して、その過程や結果を適切に表現している。
	③学びに向かう力、人間性等	常に主体的取り組み、自分ごととして考えることができ、他者との共同作業の中で他者の意見を受け入れるとともに、自分の意見も主張できる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>本来は沖縄に修学旅行に行くはずであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で行くことができなくなった。しかし、自分たちでバーチャル修学旅行を企画するなど、沖縄に関する理解に積極的に取り組んでいた。しかし、第二次世界大戦中の悲惨な歴史を学んでいたが、それ以外の歴史的な知識が欠落し、意識されていないなど不十分な点があったことを踏まえ、琉球・沖縄史として地域史を学ぶことによって、よりよく他の地域を知ることの意義を学んでもらいたく、この単元の設定に至った。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>琉球・沖縄史について、本来地域史として時代ごとにバラバラに学ぶ範囲であるが、通史で学ぶことにより、琉球・沖縄が本土とは違い独自の歴史と文化があること知ることができる。そこから、同じ日本であっても必ずしも均一化されたものではないこと、それによる差別や偏見があったことを学ぶことにより他者理解の一助になると考える。また、「SDGs」を絡めることにより、日本国内の問題に留まらず、他国との文化的な理解つなげることを意識させたい。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本学級の生徒は、積極的な生徒が多い。Globalコースに所属している生徒もおり、英語学習を含め、他国に興味を示す生徒や、発想力に富む生徒も多い。SDGsはもとより、社会貢献活動に従事したいと考えている生徒もいる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>世界には国同士の無関心や無理解から戦争や紛争に至る事例が多々あるが、それは他人事ではない。日本においても起こりうる可能性がある。現在、沖縄には基地問題を始め、本土との格差を感じる人の割合が多い。同じ日本でもこのような意識の差があることを知り、他者を積極的に理解する姿勢を持つ生徒の育成を目的とする。</p>
--	--

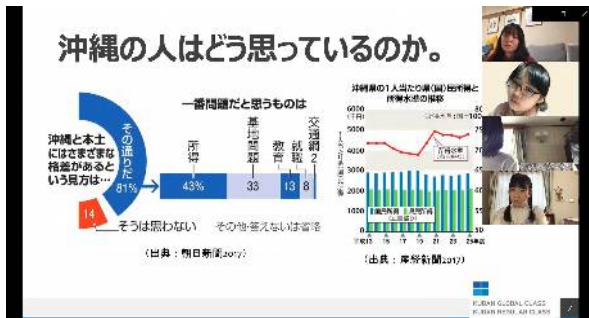
6. 単元計画 (全 3 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	原始から近世までの琉球史の流れ (琉球王国の繁栄)	今まで、時代ごとにバラバラに学んでいた地域史としての琉球史を統合することにより、どのような歴史を歩んできたのかを理解させる。	ZOOM を利用したオンライン授業である ・Google の Jamboard や ZOOM のブレイクアウトセッションにより適宜、意見表明の機会を作る。 ・PowerPoint を利用したスライドを使い、視覚に訴えつつ、歴史の流れをイメージさせる。 ・琉球文化を紹介するだけでなく、三線の音色を実際に聞くことを通して、日本本土とは違う歴史をたどっていることを意識させる。	・『新詳日本史 B』山川出版社 ・『新詳日本史』浜島書店 (資料集) ・琉球・沖縄史授業プリント (自作) ・授業用 PowerPoint
2 本時	近現代の琉球・沖縄史の流れと移民について考える	戦前の近代史を学ぶことにより、本土との制度や経済的な差を理解しつつ、世界各地に沖縄の人が移住したことの意味や背景について理解させる。	ZOOM を利用したオンライン授業である ① 今回の授業のキーワードを意識させる ② 前時の授業の振り返りから、今回の授業の流れを意識させる。 ③ 「問い」からのブレイクアウトセッション 4人1組で、自分の考えを述べ合う。 ④ 沖縄の県民意識調査の結果の共有 ⑤ 近代史の講義と移民についての理解と共有 ⑥ 神奈川県横浜市鶴見区の事例を挙げ、沖縄・南米・日本との関係を考える ⑦ 動画「HOME」から世界と日本と地域について考えさせる ⑧ 次の時間までの宿題の提示 ・ユネスコ憲章の前文を読んでくる	・『新詳日本史 B』山川出版社 ・『新詳日本史』浜島書店 (資料集) ・琉球・沖縄史授業プリント (自作) ・海外移住資料館の資料 ・鶴見区のデータ ・県民意識調査 ・沖縄タイムス ・朝日新聞 ・産経新聞 ・授業用 PowerPoint

3	あなたにとって「日本とは？日本人とは？」	2回の授業を受けて「日本とは？日本人とは？」という問いに対して、ルーツとアイデンティティを踏まえ、異文化理解と平和についてつなげ、考えさせる。	ZOOMを利用したオンライン授業である ・前時の宿題について、考えるポイントになった部分を、チャットに入力させる。 ・各々の考えた、「日本とは？日本人とは？」という問いに対しての、答えを発表する。 ・価値観の違いを、育った環境を例にして考える。 ・あなたを知っているコミュニティーから知らないコミュニティーに生活の場が変わった場合を想定し、文化の違いだけではなく、立場の違いも問題になってくることを学ぶ。 ・上記2つの事例から、多文化共生について考えてみる。 ・日本の歴史を学ぶことと、ルーツ・アイデンティティのつながりについて考えてみる。	・授業用 PowerPoint ・UNESCO 憲章の前文
---	----------------------	---	--	----------------------------------

<p>7. 本時の展開（2時間目）</p> <p>本時のねらい：沖縄の歴史を本土と比べながら学ぶことにより、本時最初の問いである「沖縄は日本だと思いますか？」について学習者の考えを深める。また、沖縄の移民の歴史と横浜市鶴見区の事例を踏まえ、移民を多く受け入れている日本の現状を捉え、「日本とは？日本人とは？」という問いに様々な角度から向き合うことができるようにする。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">導入</div>       (7分) <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">展開</div>	<p>① 今日の授業において、頭に置いて欲しいキーワードの共有 ルーツとアイデンティティ</p> <p>② 前時の振り返り 近世までの琉球史のポイントについての問いかけ チャットを利用して、アウトプット</p> <p>③ 問いかけ 「あなたは沖縄を日本だと思いますか？」 ・個人ワーク：自分の考えの整理（2分） ※この時間に、ブレイクアウトの準備 ・ブレイクアウトセッション（5分） ※上記の問いについての意見の発表とグループで出た意見を集約して、グループ代表として発表してくれる人を決める ・発表（3分） グループで意見などを発表し、みんなで共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーツとアイデンティティの意味を伝えつつ、今回の授業に参加する姿勢を作る</li> <li>・積極的に参加できるように、チャットの内容を声に出して復唱しつつ、「ありがとう」の声掛けをする</li> <li>・ブレイクアウトの各ルームに参加し、話し合いが進んでいるか確認する</li> <li>・発表に対し、気付きの部分を復唱し、何がポイントなのか</li> </ul>	<p>② 振り返り 琉球・沖縄史のプリントの左側を確認</p>



④ 沖縄の県民意識調査の結果を共有する  
 沖縄の人は本土についてどう思っているのかを各新聞社が調べたデータを利用して共有する



⑤ 明治以降の沖縄史についての講義  
 琉球王国から琉球藩、沖縄県へ変化  
 謝花昇らの自由民権運動が起こった理由  
 本土以上の不況と移民との関係性を考える  
 沖縄戦の悲劇について、事前学習を振り返る  
 ※チャットを利用して、事前学習で学んだことやその時の感情を聞く



⑥ 戦後の沖縄の流れ  
 本土が主権回復後もアメリカ政府の間接統治が続くこと。また、高度経済成長期の本土に対して、沖縄は経済的に後れを取っていたことを理解する

を意識させる。

・できるだけ淡々と  
 事実だけ述べる

・本土との違いを政治・経済・社会の各方面から説明する  
 事前学習で通じた学びによって得た感情を率直に出す声掛けをする

・沖縄県公文書館のHPを見せながら、沖縄と移民についての説明を、本土との違いを意識させる

④ 県民意識調査を利用  
 沖縄タイムス（2017）  
 朝日新聞（2017）  
 産経新聞（2017）

⑤ 琉球・沖縄史のプリントの右側を進める  
 海外移住資料館資料  
 笠戸丸移民

⑥ 沖縄県公文書館HPを引用

## あの日の沖縄

1945年（昭和20）の米軍上陸以降、沖縄では広大な土地が軍用地として接収され、農地や宅地を失った住民の生活困難をきわめました。加えて急激な人口増加がさまざまな問題をもたらし、沖縄群島政府は「沖縄の経済的自立の基は過剰人口の対策がその基礎となる」との認識から、海民を推進する方針を固めました。



沖縄戦公文書館HPより

- ⑦ 鶴見のお店の写真を見て気が付くことは生徒にチャットで気が付いたことを入力

## 神奈川県横浜市鶴見区にあるお店



- ⑧ 鶴見区の事情

沖縄出身の人が多く、ブラジル人が多い歴史的な背景を知り、その支援が行われていること。また、それにより自分のルーツやアイデンティティに悩む人がいることを理解する。



(33分)

まとめ

- ⑨ 日本はすでに多文化社会

現在、日本は OECD の中で4番目に移民が多い国であることから、相手のルーツを理解し、アイデンティティを尊重することが必要になってきている

その上で、日本の歴史をなぜ学ぶのか。そして、今日学んだことを踏まえて

(5分)

- ⑦ EL BOSQUE の写真を利用

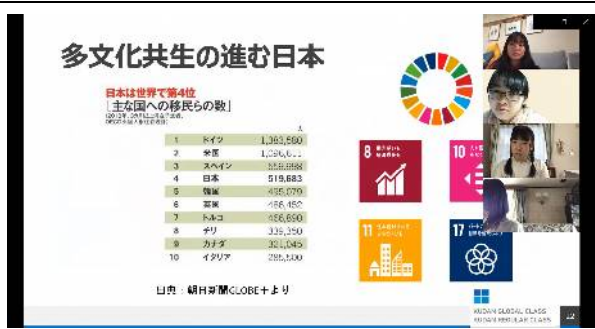
・なぜ、一軒のお店なのに沖縄とラテン料理を出すのかを意識させる

- ⑧ 横浜市鶴見区の資料を利用

・特に「沖縄へのルーツを探る旅」について言及し、アイデンティティとは何か？を考えさせる

・鶴見区の事例は、私たちにとっても身近になりつつあることを意識させる

・SDGs との関連について説明をする



⑩ 宿題の提示

あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」という問いに答えてもらう



・動画「HOME」を見せながら地域と世界の問題がつながることの説明をする

⑩ UNESCO 憲章前文  
動画「HOME」

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

1. 問いかけに対しチャットで反応することができる。  
⇒後日、入力したチャットの内容を踏まえて振り返りをおこなう。
2. ブレイクアウトルームにおいて自分の意見を相手に伝えることができる。  
⇒短い時間の中で、前時の授業内容も踏まえ、自分の考えを整理しまとめることができるか。
3. ブレイクアウトルームにおいて相手の意見に共感し、自分の意見を補足・修正することができる。  
⇒自分の意見を押し通すだけでなく、相手の意見を受け入れ、自分の意見を補強することができるか。
4. 後日配布する振り返りシートに漏れなく、記述することができるか。  
⇒自分自身の考えを文章により表現することができるか。

9. 学習方法及び外部との連携

・学習者同士がオンライン上でのブレイクアウトルームにおいて、自分の意見が述べられるようにするために、日頃の授業方法から意識する。

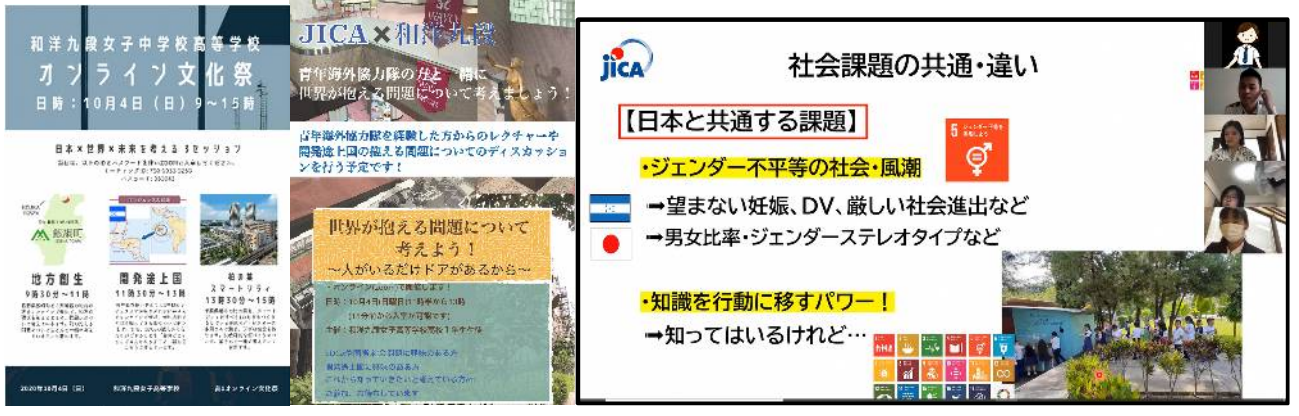
1. 日頃の授業から、話し合いが活発になる「問い」を作ることを心掛け、練習をしておく  
⇒ 日頃の授業から、学習者同士が意見を言える機会を多く準備しておく。
2. ファシリテーター役を決める方法を作っておく
3. 発表が終わったときに拍手をする癖をつける（学習者同士が、快く発表ができる場づくり）  
当たり前ですが、日頃から意識し、常日頃から行っておくことがオンラインになっても生きてくる。



10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

【校内】

・オンライン上で行った文化祭において、JICA 東京より佐谷孝行様をお招きして、ホンジュラスでの国際協力と問題点などを講演して頂いた。加えて、国際理解について生徒とディスカッションをして頂いた。



【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>オンラインでの研究授業であったため、事前に紙ベースの資料を渡すことができなく、すべてオンライン上で行った点。また、授業時に PowerPoint の画面を共有してしまうと、生徒の反応が分からなかった点。本来使用するはずだった、Jamboard が機能しなかったこと。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>【オンライン】 最後に振り返りを入れることができるように、5分程度の時間を確保できる時間配分を考えておく。</p> <p>【対面授業】 オンラインを意識したスライドになっているので、板書計画を作る必要がある。また、付箋を使い自分の考えをどんどん貼らせていくワークを入れると、その後の意見交換において効果的である。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>沖縄県を日本の一つの地方という捉え方だけでなく、沖縄を独自の歴史や文化を持ち、東アジアの地域史にとって重要な立場であったことを意識させることができた。また、沖縄の独自の歴史や文化を学ぶことによって、日本・日本人という定義はあくまでも便宜的であり、相互理解が重要な点について学習者自身の気付きを引き出すことができた。そこから、移住・移民に対する理解と、現在の日本の抱え問題の一つ、多文化共生について様々な角度から考える機会になった。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>ワークシートの振り返りより</p>

2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思いませんか？

a. あなたの意見

沖縄は形式上、日本の一部となっているが、独自の文化が今に残っており、自分としてはあり日本だとは思わない。  
パスポートなしで行ける外国！！

b. 友達の意見

日本だと思わない、独自の文化、沖縄の方言  
日本人の血だけではないものが流れている  
日本だと思ふ、日本語を話す  
日本の一部

c. データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

沖縄の人は日本に復帰は良かったと多くの方が感じている。反面、本土との格差があると感じている人がとても多い。格差問題は良く話題になるが、所得にこれにも差があると思ってもみなかった。

2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思いませんか？

a. あなたの意見

思いません。琉球語があるが、日本語を話しているからです。  
また、外国人に日本で行きたい場所を聞くと、沖縄としたり、日本に来たいがあるが聞くと沖縄と答えてきたりするので主観的にも客観的にも沖縄は日本だと思いません。

b. 友達の意見

思わない。文化や行事、慣習が異なるから。  
パスポートなしで行ける外国のような感覚。  
顔つきが日本人よりも濃いめで、沖縄特有のものが多いから。

c. データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

日本に復帰してよかったと思っている人が多いが、その割合と同じくらいの人か本土との格差を感じている。本土の人と沖縄の人の格差が遠く、物の見方も大きく異なるということを感じた。

6. 問い：あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」

a. 問いに対してのあなたなりの定義

沖縄が独自の文化を持つほか、日本各地にはその土地独自の文化があるので、日本人とはひとくくりにしてはくれないと思う。日本は多文化に対して寛容な国である。  
日本人というくくりは新しい。  
日本、芝生の綺麗な国

b. 問いに対してのあなたの答え

日本人というくくりは新しい。  
日本、芝生の綺麗な国

c. 今回の授業を通して、この問いで振り返ってみて気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

人によって出身や人種やグループ分けするときの手段に自分も思っていた。また、自分にとっての当たり前が、他人にとっての当たり前かどうかは分からないという点も分かる。同時にこのことを理解していないと誤解が生ずるので怖いなと思った。

7. 今回の授業を通して考えてみよう！

a. これまで記述した「気付いたこと、学んだこと」から一つ選び、その文章の守護を「(一般的な)人」⇒「私(自分自身)」と変化させて自らの教訓にしてみよう！

・気付いたこと、学んだこと

「人」の定義が難しかったこと、共存する世界が望ましく、実現させる重要性があるということ。

⇒ 「(一般的な)人」を主語にすると…

我々も、様々な人種の人やルーツを持つ人の中で、たゞ一口に「日本人」というのではなく、お互いを理解し共存せねばならない。

⇒ 「私」を主語にして自分自身の教訓にすると…

私はどんなルーツを持つ人でも、今まで持っていた「日本人」という観点を捨て、利大は根拠で「人々と共存せねば」ならない。



15. 授業者による自由記述	<p>最初に新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外への派遣が中止になったにも関わらず、国内での実施を模索し、実施していただいた JICA 東京の関係者の方々に感謝申し上げます。私にとって、この教師海外研修は、多くの先生方と意見を交わす貴重な機会となりました。特に、普段話をする機会のない小学校や特別支援の先生方との学びは、物事を様々な角度から捉えるきっかけとなりました。また、中高の先生方とは教科科目を越え、どのような目線で生徒と向き合うのかの実践的な視点をいただきました。佐藤先生からは「公平」「公正」その先の視点、視座を高くすることを学び、フィールドワークの中で実践することにより、今まで見えなかったことまで見るができるようになりました。今回の研究授業の題材は、私が日本史を生徒と一緒に学ぶ良い機会となりました。研修に参加して、他の教員仲間と語り合うことにより、日頃からモヤモヤしていた何かが見えた気がします。それが、「日本とは？日本人とは？」という私なりの「問い」です。日頃何となく使っている、「日本人」という言葉は本当に使い方が合っているのか？また、「日本」や「日本人」という括りはどこまでなのかという疑問を、「沖縄」という存在にヒントを得た思いがします。すでに OECD の中で 4 番目の移民大国日本は、多文化共生に向けた動きを加速させる必要があります。それには、多くの気づきが必要だと思います。特にこれからの世代である生徒の視座を高くするためには、教員である私たちの視座を高めなくては到底できることではないと思います。この教師海外研修というプログラムは、さまざまな刺激を私たちに与えてもらうだけでなく、視座を高めるきっかけになります。参加を悩まれている先生方におかれましては、生意気ではありますが勇気を持って、ちょっと学校の外に出てみてください。きっと素敵な出会いや視野の広がりを体験することになるでしょう。</p>
----------------	--

参考資料：

- ・『新詳 日本史 B』(山川出版社)
- ・『新詳 日本史』資料集 (浜島書店)
- ・鶴見区多文化共生推進アクションプラン 改訂版 平成 23～26 年度：鶴見区役所 (平成 23 年 4 月)
- ・外国人住民調査書-改訂版-：公益財団法人 人権教育啓発推進センター (平成 29 年 6 月)
- ・UNESCO 憲章前文：<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000125590.nameddest=constitution>
- ・日本に復帰してよかった？ (沖縄タイムス HP より)：  
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/97097>
- ・「本土と格差」沖縄県民調査 (朝日新聞 HP より)：  
<https://www.asahi.com/articles/ASK5C05N3K5BTPOB003.html>
- ・琉球新報 (2020 年 6 月 23 日の記事より)：  
<https://viewer.ryukyushimpo.jp/books/viewer/app/P000003970/2020/06/23>
- ・沖縄県公文書館 (琉球政府計画移民) HP より：  
[https://www.archives.pref.okinawa.jp/news/that\\_day/5804](https://www.archives.pref.okinawa.jp/news/that_day/5804)
- ・朝日新聞 GLOBE+ (主な国への移民の数) HP より：<https://globe.asahi.com/article/13996571>
- ・神奈川県横浜市鶴見区資料より (多文化共生のまち、外国人住民)  
[https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kusei/tokei/20170923165819.files/0032\\_20181030.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kusei/tokei/20170923165819.files/0032_20181030.pdf)

- ・海外移住資料館（ブラジルへの日本人移住、海外移住とは何か）  
<https://www.jica.go.jp/jomm/outline/list.html>
- ・動画「HOME」：<https://www.youtube.com/watch?v=8eJD0BuNN1Y>
- ・ABC ジャパン PowerPoint 資料より